

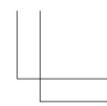
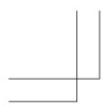
平成の桃源郷

西米良村

西米良村に古くから伝わる語りや偉人の格言には、ずっと語り継いでいきたい、人生に大切な言葉がたくさん含まれています。村上三絃道が音楽の調べにのせて、いつまでも残つていって欲しい西米良村の唄たちをご紹介します。

西米良村伝承 風の唄 土の唄より3曲を紹介します。歌詞は裏面をご覧下さい。





にし め ら おん ど
西米良音頭

はる のぼ め ら さん ざん いちふさいしどう あまづつ
ハアー 春は登ろうか 米良三山に 市房石堂 それ天包み

みね なだい まい こぼる はるがすみ
峰にや名代のアケボノつつじ 参る児原も春霞 トコサイトコノヨイヤサノサ

なつ まね わね すぎ ひのき まつばやし
ハアー 夏は招くよあの尾根づたい 杉に桧にそれ松林

みごと し た にし め ら い き じ とお あゆ さと
見事仕立てた西米良意氣地 遠いせせらぎ鮎の里 トコサイトコノヨイヤサノサ

あき たに はぎ もみじ
ハアー 秋はさぎりの あの谷あたり 萩にすすきにそれあの紅葉

おも みなも だ
もゆる思いを水面にうつし 抱いてくれたかアーチダム コサイトコノヨイヤサノサ

ふゆ まい よ かぐら ふえ たいこ すず ね
ハアー 冬は参ろうや あの夜神楽に 笛に太鼓にそれ鈴の音よ

ほし よ ぼうねんいの むかし きくち ち あつ
星のふる夜に豊年祈りや 昔菊池の血も熱い トコサイトコノヨイヤサノサ

*昭和43年に実施された明治100年記念事業の一環として西米良村歌とともに制作されました。歌詞は一般公募で中武武明氏のものが採用になりました。その後、当時、西米良中学校に在職していた教諭の計らいにより、日本レクリエーション協会が推薦する音頭としてレコード会社が編曲し、現在の西米良音頭として定着しました。

め ら かぐ ら ばや し
米良の神楽囃子

トコサイトコノヨヤサノサ こんや いちや ゆる
貴女百まで 今夜一夜はお許しなされ
あなたひよく くじゅうく しらが は
わしゃ九十九まで ともに白髪のノ 生ゆるまで《ホイホーイ》

トコサイトコノヨヤサノサ あの娘良い娘だ わし見て笑た
かぜ まつ ふえ とお むかし なつ
風にかすむは祭りの笛か 遠い昔がノー 懐かしや

*神楽の際に、客席で歌われたのが「神楽せり唄」。西米良では「神楽ばやし」と呼ばれています。小川地区、村所地区で歌われているそれぞれに異なる「神楽囃子」をメドレーにしています。

たけ はら ほん おど うた
竹原の盆踊り唄

ぼん じゅうよっか に ぼ
盆の十四日にや ささげの煮干し《チョイトチョイチョイトチョイチョイ》

いろ くろ あじ よ
色は黒かれのう 味や良かれ《ヤットコセーノ ヨイヤサノサ》

いち あさがお に かきつぼた さん さが ふじ し し ぼたん
一に朝顔 二に杜若 三に下り藤 四に獅子牡丹

いつ いちふさせんぼんざくら むつ むらさきいろ そ
五つ市房千本桜 六つ 紫色よく染めて

なな なんてんばな や やえざくら こここの こうめ ち ぼたん
七つ南天花 八つ八重桜 九つ小梅に散らした牡丹

とお とのさまたか は ご もん とお とのさまたか は ご もん
十で殿様鷹の羽御紋 十で殿様鷹の羽御紋

*竹原地区の盆供養で歌われている「盆踊り唄」。「盆の十四日は、ささげの煮干し、色は黒いが味よかれ」の歌詞の「ささげの煮干し」とは、ささげ豆を使った西米良独特のスイーツのことです。

